

(様式 1)

大学院派遣研修報告書

所属校	東京都立美原高等学校	氏名	佐久間浩美
派遣大学院	千葉大学大学院	専攻・コース	教育学研究科養護教育専攻
研究テーマ	認知的スキルを育成する性教育指導法の実践と評価		

I 研究の概要

認知的スキルを育成する性教育指導法の実践と評価

1 はじめに

10代の若者の性の現状は、性行動の早期化、人工妊娠中絶数の増加、性感染症の蔓延など、問題が多い。それに対し従来の性教育は、性に関する知識の提供が中心であり、必ずしも自分自身の行動の選択を考えさせる面で、十分ではなかった。ところで、近年、健康教育において、知識と行動を結び付けるものとして、ライフスキルを含む認知的スキルが注目されている¹⁾。そこで、筆者は、性教育においても結果を予測して行動を選択する、などの認知的スキルを育成することが、望ましい性行動に貢献するのではないかと考え、指導法を開発し、評価を行った。

2 研究方法

(1) 授業及び調査の対象と方法

都立A高校2年生284名。授業群3クラス(男子64名、女子58名)、対照群4クラス(男子82名、女子80名)を設定した。調査期間は、2004年11月から2005年3月までで、この間に授業群には授業を5時間実施した。調査は、授業前、授業1週間後、授業3ヶ月後の時点において選択肢式の質問紙を用いて直接配布調査法で行い、その場で回収した。調査は個人の時間的経過に伴う変化を追跡するために記名式とした。

(2) 授業の開発

① 指導の実際

授業群には、保健学習の第2単元「生涯を通じる健康」の思春期の部分を5時間構成で授業を行った。1,2時間目は思春期の意識の違いや、望まない妊娠と性感染症など、主に知識理解を深める授業、3,4,5時間目は性に関する意思決定・行動選択について、「問題解決的に取り組むスキル」「否定的思考をコントロールするスキル」「即座の満足を先延ばしするスキル」など3つの認知的スキルの育成をねらった授業を実施した。

② 認知的スキルを育成する指導法の工夫

指導法に関しては、ケーススタディを基に参加型グループ学習を導入した。例えば3時間目の授業では、課題をもとに意思決定樹をつくらせ、行動と結果について考えさせた。課題は、「あこがれの先輩とつきあい始めた高校1年生のユカリが、彼の元カノの存在を知り、

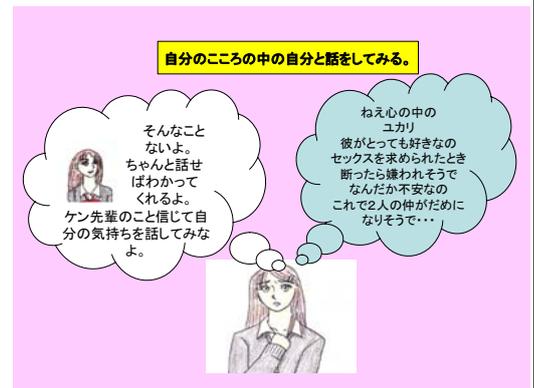
次第に不安な気持ちになっていく。友人から積極的に行動しないとまずいのではないかと
言われ、まだ彼と性的関係を持つ事は早いと思いつながら

図 1

も、悩んでしまう。そんな状況で2人きりになった時、次にユカリはどう行動するか、彼はどう行動するか」(図1)というものである。この後の行動について、積極的なものから、消極的なものまで色々挙げさせ、その結果を予測させた。授業ではその結果が妥当なものであるか吟味し、適切な行動選択についての支援を行った。この授業のねらいは、行動は結果を予測して選択することが、大切であるという事を理解させ、問題解決的に取り組むスキルを向上させる事である。また、4時間目の授業では行動の選択の難しさについて考えさせた。人は行動を選択する時に、自分の置かれている状況を実際より悪くとらえてしまうことがある。これを否定的な思考といい、この思考があると考えの幅が狭くなり望ましい行動が選べない事を説明した。そこで、行動を選択する際には否定的な思考をコントロールするスキルが必要だと理解させ、具体的な方法として、自分の中の自分と会話する「自己会話」というメタ認知的スキルを提示した(図2)。また、即座の満足先延ばしするスキルを説明し、この2人にとってセックスをすぐにではなくて、先に延ばすことによって得られるものは何か考えさせ、欲求を先延ばしする利点について理解させた。



図 2



(3) 調査の内容

①性の意思決定・行動選択に関する態度

「性の意思決定・行動選択に関する態度の項目(あなたは、恋人に性についての考えを言ったり、相手の考えを聞いたり、十分に話ができると思いますか?など授業のねらいに沿ったもの)」を8項目挙げて、「できる」「ややできる」、「ややできない」、「できない」の4段階の自己評価をさせた。順項目には4点から1点、逆項目には1点から4点まで与えた。得点の分布は、8点から32点までで、得点の高い者ほど性の意思決定・行動選択に関して望ましい態度を持っていることを示す。

②一般性のある認知的スキル

高橋が開発した自己管理スキル尺度²⁾を用いた。自己管理に関わる10項目について「あてはまる」「ややあてはまる」「あまりあてはまらない」「当てはまらない」の4段階で自己評価をさせた。順項目には4点から1点、逆項目には1点から4点を与えた。得点の分布は10点から40点までで、得点が高いほど認知的スキルが豊富であることを示す。

③性についての認知的スキル

授業後実施した、「性についての保健テスト」のスキル問題(20点)で、評価した。問題は、「親が留守なので家に遊びにこないかと彼に誘われたA子さんに対してあなたは、どうアドバイスしますか」という内容で、「結果を予測する」「否定的思考をコントロールする」「即座の満足先延ばしする」「2人の関係性」について書かれているものについて5点ずつ与えた。得点の高いものほど、性についての認知的スキルが豊富であることを示す。

④学習後の行動に対する意欲

学んだことを活用する意欲を、授業後の感想文により評価した。授業を知識として理解し

ただけではなく、自分自身のこととしてとらえ、自分の行動に活用しようとしたかを感想文記述より分析、評価した。分析の視点として表1のように①から③まで挙げ、当てはまる場所に分類した。重複した場合は③から①に優先した。感想文分析は3名で行い、それぞれ判定者3名のうち2名以上の判定が一致したところに分類している。判定者3名一致率は50.3%、2名一致率は46.8%、3名不一致率は2.9%であった。

表1, 感想文分析の分類方法

- ① 授業の内容感想や内容が述べられている「～がわかった」「ためになった」……感想・内容記述
- ② 自分自身のこととしてとらえている「～に気づいた」「自分は～と考えた」……自己認知記述
- ③ 自分自身の行動に結び付いて書かれている「～行動する」「これからは～をする」……行動記述

3 結果

(1) 性の意思決定・行動選択に関する態度

「性の意思決定・行動選択に関する態度」得点について、授業群と対照群の「授業前」から「授業1週間後」への伸びと、「授業前」から「授業3ヶ月後」への伸びに関して、対応のない2群のt検定を行った。授業群と対照群の伸びを比較すると「授業1週間後」、「授業3ヶ月後」とも0.1%水準で授業群が、有意に上回っていた(表2)。

表2, 授業群と対照群の授業1週間後と授業3ヶ月後の「性の意思決定・行動選択に関する態度」の項目得点の伸びについて、対応のない2群のt検定

	n	授業1週間後	t 値		授業3ヶ月後	t 値	
授業群	106	2.27±3.74	4.95	p < 0.001	2.68±3.83	3.87	p < 0.001
対照群	131	0.27±2.44			0.90±3.04		

(2) 一般性のある認知的スキルについて

「自己管理スキル」得点について、授業群と対照群の「授業前」から「授業1週間後」への伸びと、「授業前」から「授業3ヶ月後」への伸びに関して、対応のない2群のt検定を行った。授業群と対照群の伸びを比較すると「授業1週間後」、「授業3ヶ月後」とも0.1%水準で授業群が有意に上回っていた(表3)。

表3, 授業群と対照群の「自己管理スキル尺度」の得点の伸びについて、対応のない2群のt検定

	n	授業1週間後	t 値		授業3ヶ月後	t 値	
授業群	110	0.87±2.88	3.17	p < 0.001	1.42±3.17	3.36	p < 0.001
対照群	136	- 0.49±2.83			0.17±2.58		

(3) 性についての認知的スキルについて

「性についての保健テスト」のスキル問題について、授業群と対照群の得点差に関して、対応のない2群のt検定を行った。0.1%水準で授業群が対照群に比べ有意に高かった(表4)。

表4, 「性についての保健テスト」のスキル問題 対応のない2群のt検定

	n	得点	t 値	
授業群	110	10.87±3.90	4.77	p < 0.001
対照群	159	8.43±4.12		

(4) 学習後の行動に対する意欲

授業後の感想文を分類し χ^2 検定を行った。授業によって感想文記述に有意差が認められた (表 5)。

表 5, 生徒の感想 (％)

	1 時間目	2 時間目	3 時間目	4 時間目	5 時間目
感想・内容記述	84.8	55.5	64.1	47.8	53.3
自己認知記述	9.8	30.4	26.1	39.2	30.4
行動記述	5.4	14.1	9.8	13.0	16.3

$$\chi^2 = 36.553$$

$$p < 0.001$$

4 考察とまとめ

授業が終了した 1 週間後に調査したところ、授業群の生徒は、対照群の生徒に比べ、性についての意思決定・行動選択の態度が好ましい方向に変化しており、3 ヶ月後も定着していた。また、一般性のある認知的スキルも、授業群の生徒は対照群の生徒に比べ、授業後に向上しており、3 ヶ月後も定着していた。授業の効果については、授業群の方が対照群に比べ授業後の「性についての保健テスト」のスキル問題の得点が高いことから、明らかにされている。また、感想文分析より、授業が進むにつれて、自己認知記述や行動記述が増えていることから、生徒は学習した内容を、知識として理解しただけではなく、次第に自分のこととしてとらえ、自分の行動に活用しようとする意欲が出てきたのではないかと考えられる。

以上のことから、認知的スキルを性教育指導法に導入することは、性についての望ましい態度や行動への意欲に貢献できることが示されたといえる。しかし、今回の研究は、実際の行動を調査したものでないため、授業によって、望ましい行動ができることまで明らかにされたものではない。ただし、過去の研究結果より、認知的スキルが高い者ほど望ましい行動が実現できることが明らかにされている³⁾。このことから、認知的スキルを性教育に導入することは、生徒の性に関する望ましい性行動に有効である可能性が示唆された。今後、さらに効果的な教育方法について検討を重ねていきたい。

参考文献 1) 高橋浩之：行動科学を生かした健康教育，こどもと健康，81：30-37，2005

2) 高橋浩之，中村正和，木下朋子ほか：自己管理スキル尺度の開発と信頼性・妥当性の検討，日本公衆衛生雑誌，47：907-914，2000

3) 竹鼻ゆかり，高橋浩之：糖尿病患者の自己管理行動と認知的スキルとの関連についての検討，日本公衆衛生誌，49：1159-1168，2002

II 学校等における研修成果の活用計画

来年度、「保健」において、2 年生を対象に 5 時間扱いで性教育の授業を実施する。また、さらに新しいプログラムを開発し実践する予定である。

大学院派遣研修成果活用状況

所 属 校	東京都立美原高等学校	氏 名	佐久間 浩美
派遣大学院	千葉大学	専攻・コース	教育学研究科 養護教育専攻
研究主題	認知的スキルを育成する性教育指導法の実践と評価 －自己管理スキルの活用－		
1 所 属 校 で の 成 果 活 用	<p>「保健」の授業において、大学院派遣研修を通じて開発された「思春期と健康」の部分の他に、「医療保健制度の活用」でも認知的スキルを育成する指導法を開発・実践し、その有効性の評価を行なっている。</p> <p>昨年は認知的スキルを育成する性教育指導法を開発し、指導法の有効性を検討した。その結果は、昨年報告しており、望ましい性行動の実現に貢献できる可能性が示唆されている。今年度は、高等学校保健学習第2単元「生涯を通じる健康」において、性教育指導法に加え「地域の保健・医療機関の活用」においても認知的スキルを導入し介入期間を延長した上で指導法の有効性を検討した。</p>		
2 委 員 会 ・ 研 修 会 で の 成 果 活 用	<ul style="list-style-type: none"> ・ 東京都教職員研修センターにて、平成 18 年度大学院派遣研修事前研修会の講師を務めた。 ・ 11 月 21 日に行なわれる養護教諭連絡協議会に、大学院派遣研修で得た成果を発表する予定である。養護教諭連絡協議会で実践発表するワークシートを添付する。(別紙参照) ・ 授業は、授業群、対照群ともに保健学習第 2 単元「生涯を通じる健康」の部分を 12 時間扱いで行う。授業群の授業は、認知的スキルの一つと考えられる自己管理スキルが指導法の中に組み込まれている。自己管理スキル尺度¹⁾からは「否定的思考をコントロールするスキル」等の因子が因子分析から抽出されている。授業はそれぞれのスキルを伸ばす発想で作成されている。 <p>参考文献 1) 高橋浩之,竹鼻ゆかり, 佐見由紀子：年齢段階による自己管理スキルの差に関する検討. 日本健康教育学会 12:80-87,2004</p>		

3

成果を生かした研究授業等

2年3,4,6組を対象とする前期の『保健』の時間で授業を行なった。日程は以下の通りである。

学習指導要領	項目	日程	授業内容	関連するスキル	
生涯の各段階における健康	思春期と健康 結婚生活と健康	1 4月18日6組 19日3,4組	思春期の特徴・男女の性意識の違いについて		
		2 4月25日6組 5月10日3,4組	望まない妊娠と性感染症・避妊について		
		3 5月9日6組 17日3,4組	性の意思決定・行動選択について1	問題解決的に取り組むスキル	
		4 5月16日6組 31日3,4組	性の意思決定・行動選択について2	否定的思考をコントロールするスキル 即座の満足を先延ばしするスキル	
		5 6月6日6組 7日3,4組	性とコミュニケーション	問題解決的に取り組むスキル 否定的思考をコントロールするスキル	
		6 6月13日6組 14日3,4組	意思決定・行選選択について（ビデオ上映）		
	加齢と健康	7 6月20日6組 21日3,4組	加齢と健康		
		8 6月27日6組 28日3,4組	高齢者の健康（擬似老人体験授業）		
		9 7月4日6組 5日3,4組	高齢者のための社会的取り組み		
	保健・医療制度及び地域の保健・医療機関	わが国の保健・医療制度 地域の保健・医療機関の活用	10 9月5日6組 6日3,4組	保健サービスとその活用	
			11 9月12日6組 13日3,4組	医療制度と医療費	
			12 9月19日6組 20日3,4組	医療サービスとその活用	問題解決的に取り組むスキル 否定的思考をコントロールするスキル

4

今後の活用計画等

実践報告を11月21日に行なわれる養護教諭連絡協議会で発表する予定である。さらに今年度の研究結果は、11月11日～12日に行なわれる学校保健学会で発表する。
また可能であれば、来年の1学年の保健学習においても認知的スキルを育成する指導法を開発し実践したいと考えている。

1、 ケンとユカリさんが次にとる行動について考えてみましょう。

男子はケン君の立場で女子はユカリさんの立場で考えてみてください。

こう行動した	例 手をにぎった。			
--------	--------------	--	--	--

2、 では、次にあげる行動について結果を予測してみてください。

行動				
	↓	↓	↓	↓
結果				

3、 いろいろな人の意見を聞いてあなたが彼女、彼氏の立場だったらどう行動を選択するか考えてみてください。

4、 今日の授業で学んだこと考えたことを書いてください。